

## 大切にしたい、 野鳥のいる 水辺。



(写真 左側)  
日本野鳥の会  
大阪支部保護部長  
橋本正弘さん

(写真 右側)  
ア쿠ア琵琶レポーター  
北村奈津江さん

毛馬(けま)の淀川大堰から中津にかけて、橋本さんの案内で日本野鳥の会のみなさんと一緒に淀川の探鳥会に参加しました。冬の河川敷は寒いけれど、望遠鏡でのぞく野鳥のかわいらしさに時間のたつのを忘れてしまいました。

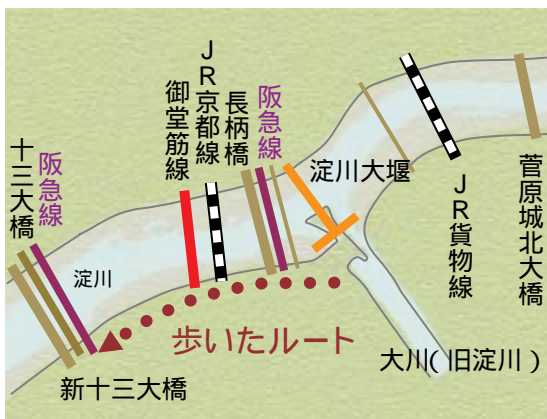
「淀川を代表する鳥」といってホシハジロですね。1日で1万羽も観察できた年もあり、本当に星の数ほどたくさんいます。ユーラシア大陸から冬渡ってきて、まず淀川で休んでから各地に散っていくんですよ。橋本さんの説明によると、淀川には全国でも二番目にたくさんホシハジロがいるそうです。初めて望遠鏡で野鳥を見せてもらいました。ホシハジロは水面に群れをつくっていて、小さな赤い目がかわいい鳥でした。あれはマガモ、あちはオカヨシガモ、カンムリカイツブリなどと教えてもらいながら、他にもいろいろな野鳥がいるのを知って、初めての探鳥はびつくりすることばかりです。

「淀川ではおよそ110種類の野鳥が観察されています。これだけ多くの種類が見られる川は全国にも少ないんですよ。また、野鳥を見るだけでなく川辺に残っている自然にも触れられるのが探鳥の魅力です。気持ちがやすらぎますね。友達もたくさんできますよ」と橋本さん。野鳥の会の理念も、探鳥を通して自然を愛し、自然を守ることだそうです。東京では自然がなくなつて野鳥が来なくなり、探鳥会ができなくなった川もあると聞き、野鳥のためにも他の生き物たちのためにも、これからも淀川の自然を大切にしていきたいと思いました。

今回の探鳥会では36種類の野鳥を見ること

### 淀川の河川敷

今回のレポートで歩いたルートです。みなさんも野鳥の姿を探して歩いてみてはいかがでしょうか。



ができました。ちょっと残念だったのは、河川敷に捨てられたゴミが多かったこと。琵琶湖、淀川の水辺の環境について、橋本さんにメッセージをいただきました。

「琵琶湖・淀川水系の恩恵で、近畿に住む1400万人たちの毎日の暮らしを支えられているんです。まさに母なる湖、母なる川ですよ。そこへゴミを捨てたり、汚れた水を流したりするのは、やめたいですよ。時には淀川に出て、野鳥を観察したり、水辺の自然に触れてみてはどうでしょうか。川を大切にする気持ちも広げていきたいですね」

きれいな鳥、かわいい鳥をたくさん見ることができ、わたしも水辺の自然の素晴らしさ、大切さをあらためて胸にきざんだ1日でした。

(北村奈津江)